

専門部会議事内容結果（要旨）	
専門部会名	第4回総合政策部会
開催日時	令和8年7月2日（木） 18時30分 ～ 20時00分
開催会場	名寄市役所名寄庁舎4階大会議室
出席委員	出席者：結城委員、遠藤委員、今野委員、伊藤委員、上西委員、 松前委員、成田委員、高橋委員、鎌塚委員、小川委員 欠席者：石田委員、守岡委員
事務局 出席者	石橋総合政策部長、伊藤教育部長、櫻田総合政策室長、佐藤総合政策課長、 横澤総合政策課主事
審議事項	1 開 会（佐藤総合政策課長） 2 部会長挨拶（結城部会長） 7月らしくない暑くない日々が続いているが、今日も活発な協議をお願いしたい。 3 議 事 （1）第3次総合計画における基本構想について（横澤総合政策課主事） （2）第3次総合計画における基本計画について（櫻田総合政策室長） ⇒事務局からの説明後、意見を聴取 4 そ の 他 （1）中間報告会の開催について（佐藤総合政策課長） （2）今後のスケジュールについて説明（横澤総合政策課主事） 7月6日（月） 中間報告会（市民説明会） 7月7日（火）または10日（金） 第5回総合政策部会（最終） 7月14日（火） 総合計画審議会全体会 7月21日（火） 総合計画の答申 7月下旬～ パブリックコメント（約1か月） 10月上旬 議会の集中審議 5 閉 会（佐藤総合政策課長）

発言内容	(1) 第3次総合計画における基本構想について ■委員：前回議論した箇所については適切に修正されている。 (2) 第3次総合計画における基本計画について ■委員：各重点プロジェクトの「主な基本計画事業」の表にある括弧番号はどのように見たらよいか確認したい。重点プロジェクト2は説明が括弧5までであるのに表側に対応がなく混乱する。 ◎事務局：分かりにくくなっているが、重点プロジェクトの前の頁にある「重点プロジェクトと前期基本計画の体系」を見ると具体的にイメージできる事業が示されている。 ■委員：市民が見て分かるよう配慮が必要だと思う。 ■委員：重点プロジェクトは基本計画の中から関連する事業を紐づけたものと理解した。ただ評価の仕方が非常に難しい。個別事業の評価を平均するのか、一部が達成できないと全体がC評価になってしまうのか。評価のバランスの取り方によっては全くできていないプロジェクトになってしまう。評価の仕方が分かりやすくなっていないと、実行段階でも評価に苦勞するのではないかと。 ◎事務局：KPIおよびKGIの設定をどうするかが課題と考えており、現行の行政評価でも、例えば交通安全のように多くの取組をしても事故が1件起きただけで評価がC、Dになってしまうといった意見があり、それを踏まえて検討を進めている。 ■委員：この資料は来週の間接報告会で使うのか。 ◎事務局：中間間報告会では配布資料にある6ページ程度の概要版を来場者に配布して説明する。 ■委員：重点プロジェクトの方向性については理解できたが、「主な施策取り組み」のボリュームが大きすぎないか。前期基本計画の期間（4年）で全てクリアできるのか。ソフトは継続すればよいが、ハードは計画期間内に全てを対応しきれないのではないかと。 ◎事務局：ハードは財政状況が厳しい中で戦略的集中により予算をかけて力を入れる部分。ただ、計画期間でどこまでできるか、今この時点で「令和何年にこの建物を建てる」とは言えないのが正直なところであり、希望を持ちながら段階的に進めていこうと考えている。 ◎事務局：事務方からすると、重点プロジェクトに設定した事業は予算確保で優先度を高くすることできる。ただ、計画に書いたから全部予算が付く訳ではないので、各事業の進捗率を提示することが大事。達成率やKPIの状況を見て、進捗が足りなければ予算調整を行うことにつながる。 ■委員：達成できなかった場合に、どう肉付けして達成するかを明確にした方がよい。「これじゃできない」ではなく「こうしたらできる」という考え方もある。市民の考え方と行政の考え方のズレを、どこが一番いいバランスかを職員も考え、補正して近づけることが大事。
-------------	---

発言内容	◎事務局：計画を柔軟化する（緩める）という話ではなく、進捗を管理する仕組み、つまりPDCAが大事という趣旨と受け止めた。 ■委員：無理なのに何とかしようと思うと、やる本人も力を失う。方向性や視点を変えることでいろんな意見が出る。大事な重点的な部分こそ視点を変えることを試みてはどうか。 ◎事務局：極端に言えば、主な基本計画事業一覧の中でどういう優先順位でやるかという話。行政評価で事業に優先順位を付け、主要施策を達成するのに一番力を入れる事業決めていくというやり方もあり得る。 ■委員：優先順位の付け方は時代の流れで変わる。「これまではこれが一番だったが今の時代はこちらを上」という順位付けも必要になる。 ◎事務局：従来の行政評価のように調書を見て「これでいい」で終わるのでなく、重点プロジェクトに紐付く事業全体を見て「この事業は進んだがバランス的に次は別の事業に力を入れないとダメ」という意見をいただくような行政評価にしていかなければいけないと考えている。 ■委員：次の世代につなげることが大事。将来を見据えて考えないと、後の時代になってから対応するのは手遅れになる。継続的に引き継いでいくことが名寄市を良くする源になる。 ◎事務局：これまでと違い、第三次計画では人口減少は避けられないものとして、いかに賢く人口減少するか、人口減少の速度をいかに遅くするか、というエッセンスに変わっている。 4年間固定で事業を進めるのではなく、毎年「来年はこちらをやった方がよい」といった意見をいただきながら進めていく必要がある。4年で足りないものは第四次、第五次計画に引き継ぐのが基本と考えている。 ■委員：意見というよりは感想となるが、重点プロジェクト2のスポーツの部分は、Nスポーツコミッションなよろの会長としてまさにやっていかなければいけないこと。名寄市立大学・名寄高校との連携という形で名指しは避けられているが、しっかり予算をつけるからやれ、というエールをいただいていると受け止めた。しっかり協力していきたい。 ■委員：重点プロジェクト2の（2）で、「英語で自身や地域を紹介できる人を養う」とかなり具体的に書かれており、4年間で小中学生をここまで達成させると読めてしまう。一律に達成させるという理解で大丈夫か。 ◎事務局：小中学生のどれくらいの割合を目標とするかは今後決めていくが、英語を活用できる場を設け、自分や地域のことを英語で説明できるようにしたいと考えている。 ■委員：思いは分かるが、ここまで具体的に書いて問題はないか。重点校を設定してそこで集中的にやる可能性も4年間ならあるのでは。全員を対象にしっかり予算化して英語力を確保する宣言なら頑張ってもらいたい、ここまで具体的に書くとKPIで必ず問われることになる。 ■委員：「英語教育等を通じて、変化の激しい社会をよりよく生き抜く力を育みます。」とあるが、語学だけで得られるものそれほど大きくなく、交流の機会があってこそだと思う。英語だけでなく包括的な内容に変えてもよいのでは。教育は時代とともに進化するので、4年後、8年後を考えるとここまで謳ってよいか疑問がある。
-------------	--

発言内容	■委員：語学力も大事だが、人とのコミュニケーションをどう取れるかが大切。今はスマホで情報を入手することができるため、人に質問するのが下手になっている。語学力も必要だが人間性を高めることも必要。 ■委員：中学校にはネパールや台湾からの学生など英語圏以外の外国人も多く、子ども達はそういう人たちも同じように受け入れられる子に育ててほしい。外国人を自然に受け入れられる環境が名寄ならできる。重点プロジェクト1に国際交流の推進があるので、色々な国の人と触れ合える機会づくりも盛り込んでほしい。 ◎事務局：情報提供になるが、小学3、4年生は週1時間の英語授業すべてにALTが入り、5、6年生は週2時間のうち7～8割の授業にALTが入るため、生きた英語に触れる機会が豊富にある。一方で、中学校では英語授業が週4時間に増えるものの、ALTが入るのは週1時間程度にとどまっており、十分な時間を確保できていないことが課題となっている。 ◎事務局：国際交流に関して、現在は行政が事務局を持っているが、名寄に国際交流協会・交流会館をまちなかに設立し、国内外交流を核となる組織として作る準備を始めることを提案している。まちなかに外国人が当たり前に集まれば、子どもたちもそこで勉強することができ、リアルなEnglishアカデミーのような環境ができる。 ■委員：具体的な記載という意味では、重点プロジェクト2の（3）で「学びを一層発展させる場として名寄市立大学に進学する流れの創出」と書かれているところも気になる。高校生全員が名寄市立大学に進学することを目指すようにも読めてしまう。 ■委員：「学びを一層発展させる・・・」の前に、「意欲を持った生徒が」という言葉を付け加えてはどうか。全員が進学するという印象を避けられる。 ■委員：必ずしも高校生全員が進学を望んでいるわけではないので、表現の変更を検討してほしい。 ◎事務局：18歳人口が急激に減る中、地元のこどもに興味を持ってもらい地元の大学に入りたいと思える仕掛けが必要と考えており、それが大学の学生確保にもつながる。記載内容については検討する。 ■委員：重点プロジェクト1の（1）で「市民のサードプレイスとして育てます」とあるが、箱モノの設置ではなく、中心市街地を交流拠点として位置づけると理解してよいか。 ◎事務局：おっしゃるとおり。サードプレイスは中心市街地を交流拠点として位置づけるものと考えている。 ■委員：重点プロジェクト3の「19線」という表記が分かりにくい。「名寄インターチェンジ」と言われれば分かるが、市民への説明で「19線」と言っても伝わらないのでは。 ◎事務局：「19線」は市長公約からの引用。「名寄インターチェンジ」が正式名という話は聞いていない。正式名称がどうなるかまだ決まっておらず、19線周辺はインターチェンジではないため、「(仮称) 名寄インターチェンジ」とする案もある。正式名称は開発局に確認する。
-------------	---

■委 員：重点プロジェクトに関する議論はどこまで深めればよいか。持ち帰っても問題ないか。

◎事務局：持ち帰っていただき、次回（7月7日または7月10日）にご意見をいただくか、メール等で事前ご意見をいただく形でも構わない。中間報告会でも市民からご意見をいただくことになるため、その内容を踏まえた上で最終案となる。

■委 員：「このような文言がいいのでは」という具体的な文言案まで踏み込んだ意見でも大丈夫か。大学のところの書きぶりは相談させてほしい。

◎事務局：そのようなご意見でも問題ないが、事務局でそのご意見を反映するかどうかは判断させていただく。

■委 員：見え消しではない計画書があれば送ってほしい。

◎事務局：見え消しではない溶け込み版の計画書を送付する。

■委 員：赤字ではないところは修正がないという認識で合っているか。

◎事務局：そのとおり。前回の部会でご意見がなかった箇所は修正しておらず、赤字にはなっていない。